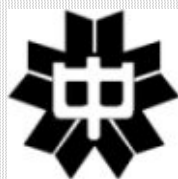


武庫中
だより



◆学校教育目標◆

- 深く考える生徒《思索》
- ともに励まし合う生徒《協調》
- 明るくたくましい生徒《健康》

確信ある一人一人に

校長 大石 泰樹

人間の真価は順境の時は見えにくいものです。むしろ、逆境の時にこそ分かってきます。「どういう人が偉いのでしょうか」との質問に、ある先人は「確信のある人だよ。」と答えています。また「確信のある人にはグチがない。弱音もない。希望がある。いつも朗らかである。また、人にも希望を与えていくことができる。」と。

確信とは自分は必ずこうなってみせる。必ず結果を出してみせるという強き心を持つことです。人生という長い道のり、遠征の途上、予期せぬ出来事や頭をかかえるような難問や絶望感におそわれることもしばしばです。人は、とすれば少しの失敗や障害にあって希望を失い、厳しい現実を前に生き抜く力をなくしたり、なげき悲しんだり、グチの方向へと後退してしまいがちになります。

しかし、逆境にあっても確信ある人は希望を見失わない。必ずそこから生き抜く活路をひらき、深い人生の喜びを広げていきます。歴史上の人物をみても、一流といわれる人の生き方にはそれがあります。その一人、ヘレンケラーについてお話しします。

目が見えず、耳がきこえず、口がきけないという三重苦を見事に克服したヘレンケラーは「希望は人を成功に導く信仰である。希望がなければ何事も成就するものではない。」とっています。彼女は血のにじむような努力を重ね、遂に、ハーバード大学を卒業し、教育家として世界中を講演し人々に生きる勇氣と希望を与えてきました。

「希望」は人生の力である。「希望」ある人生は強い。

人間だけが「希望」という未来への光を自ら生み、自分の人生を創造していきます。

大いなる希望に生きる人には、このヘレンケラーのように困難を困難としない勇氣が湧き、明日へ挑戦していく情熱を沸き立たせていきます。希望を見失った人は他人を恨んだりグチをならべてしまいます。なぜできなかったかという理由を数え、後を振り返ってばかりいます。

「失ったものを数えるな。残ったものを数えよ。」と云って体の不自由な若者たちを励まし勇氣づけたのは、国際身体障害者オリンピックを創始したグッドマン博士の言葉です。

やれない理由を並べるより、今の自分にできることは何かを考え挑戦してい

素晴らしかった修学旅行

好天の下、5月18日から20日まで鹿児島県南薩摩(指宿、知覧方面)で平和学習、ファームステイ(農業体験)を行ってきました。桜島では噴火による「へ」(火山灰の方言)が目に入ってごわごわするのを体験し、農家では優しさを味わい、知覧の特攻平和会館・富家食堂では戦争の残酷さと愚かさ平和の大切さを感じることができました。

実行委員長 宮武えりさんから一言

今回の修学旅行は、実行委員20名で、様々なことに取り組みました。私は全体レクレーション係として1日目の全体レクを計画しました。最初は、軽い気持ちでやっていましたが、修学旅行が近づくにつれプレッシャーが募ってきました。それでも、本番前になると「やるんだったら絶対に楽しいものにしよう!」とやる気が出てきました。台本通りにいかず大変な事もあったけれど、実行委員のみんなにも手伝ってもらい、とても盛り上がったレクレーションでした。計画して準備するのは大変だったけれど、みんなに喜んでもらったし、自分もとても楽しかった。砂蒸し風呂の様子です(指宿にて)と



桜島噴火



農業体験です



鳥濱トメさん経営の食堂。特攻隊員がトメさんに託した手紙を代理で家族の下へ送り続けられたのです。



知覧特攻平和会館。写真や遺書など遺品が約4500点展示されています。

